

ぼうさいぴっぴ

# 親子防災クイズ



NPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ



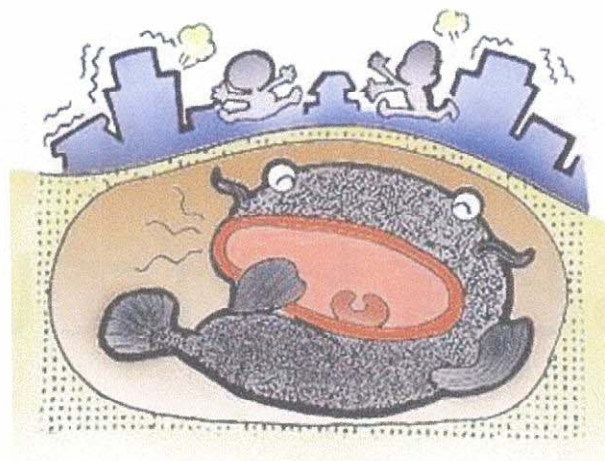


# 親子防災クイズ①



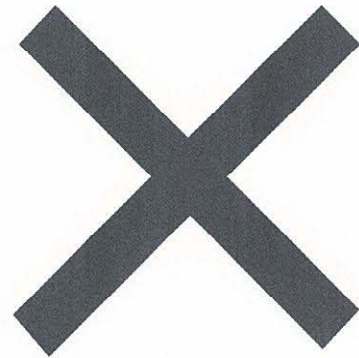
東海地震は

100年後にくる！？



## 親子防災クイズ①

Q 東海地震は 100年後にくる！？



東海地震が**今後30年の間に起きる**  
**確率は88%**とされています。





## 親子防災クイズ②



調理中、地震が起こったら、  
最初に取りる行動は、

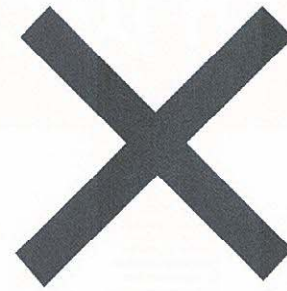
**コンロの火を消すこと**

である。



## 親子防災クイズ②

Q 調理中、地震が起こったら、最初にする行動は、コンロの火を消すことである。



最近のガスコンロは、地震の揺れを感知すると、自動的に火が止まる仕組みになっているものが多い。

火の元を消すために、やけどなどをしてしまう方がリスクが高い。

自宅のガスコンロの仕組みをチェックしておくことが必要。





# 親子防災クイズ③

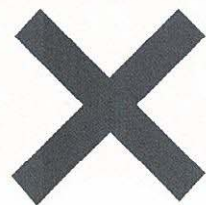


家の中で地震の揺れを  
感じたら、  
すぐに外に逃げる！？



### 親子防災クイズ③

Q 家の中で地震の揺れを感じたら、  
すぐに外に逃げる！？



まずは自分の身を守ります。  
倒れやすい家具や本棚から離れ、  
丈夫なテーブルや机の下にもぐります。  
もし机やテーブルがなかったり、  
小さかったりした場合は、  
体の中でも大事な頭や心臓を  
優先して守るようにしましょう。





# 親子防災クイズ④



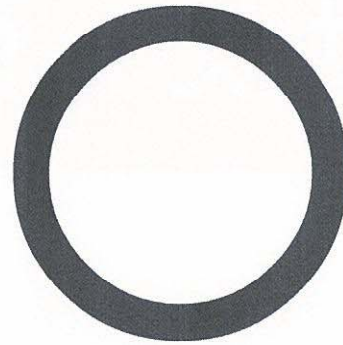
地震のとき、家の中で  
一番安全なのは



トイレだ！？

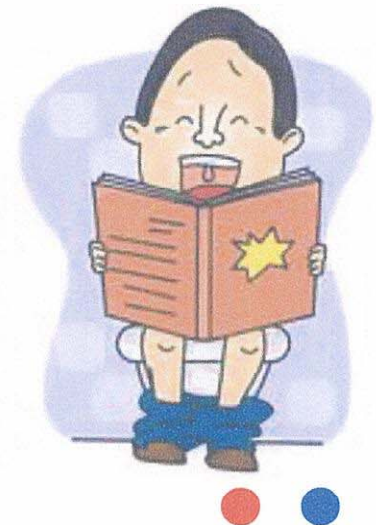
## 親子防災クイズ④

Q 地震のとき、家の中で一番安全なのはトイレだ！？



柱や壁に囲まれていて、  
落ちてくるものや倒れる家具などもないため、  
比較的安全とされています。

閉じ込められないように  
ドアを少し開けておきましょう。





# 親子防災クイズ⑤



外にいるときに地震が



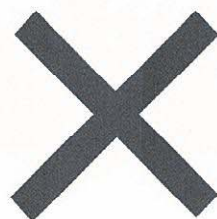
あつたら、

**ガソリンスタンド**は  
危ないので近づかない!?



## 親子防災クイズ⑤

Q 外にいるときに地震があったら、ガソリンスタンドは危ないので近づかない!?



ガソリンスタンドは  
ガソリンという危険物を扱っているため、  
しっかり安全対策をとるように、法律で  
決められています。

地下のガスタンクは厚いコンクリートで  
覆われています。



# 親子防災クイズ⑥



エレベーターに



乗っている時に

地震の揺れを感じたら、

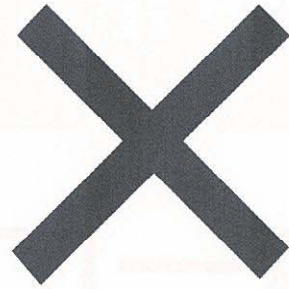
身をかがめて

揺れがおさまるのを待つ。

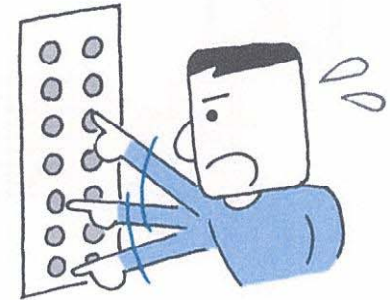


## 親子防災クイズ⑥

Q エレベーターに乗っている時に地震の揺れを感じたら、身をかがめて揺れがおさまるのを待つ。



とにかく、すべての階のボタンを押し、エレベーターが止まったところで、脱出しましょう。



乗ったままだと災害の影響で停電になった時、そのまま閉じ込められて危険です。





# 親子防災クイズ⑦



非常用の備蓄品（水や食料）は  
とりあえず

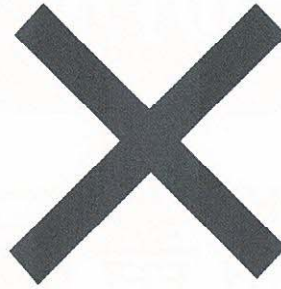
「家族の人数 × 1日分」



あればよい

## 親子防災クイズ⑦

Q 非常用の備蓄品(水や食料)  
はとりあえず  
「家族の人数×1日分」あればよい



最低でも「家族の人数×3日分」、  
できれば、1週間分用意しておきましょう。  
余裕をもって用意しておくとう安心です。  
避難所生活する時も、持ち出せる状況なら、  
避難所に持っていきましょう。





# 親子防災クイズ⑧



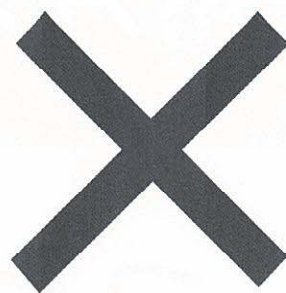
災害が起こった後、  
どこかに避難する時には、  
**必ず非常用持ち出し品を  
持って行く。**





## 親子防災クイズ

Q 災害が起こった後、どこかに避難する時には、必ず非常用持ち出し品を持って行く。



その場が危険な場合は、

まずは、**避難し、命を守ることが大切**です。

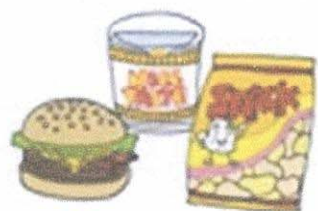
非常用持ち出し品を持ち出すのは、後からでもできます。



# 親子防災クイズ⑨



お菓子・おもちゃ・ゲーム・人形



などを、

「非常用持ち出し品」として

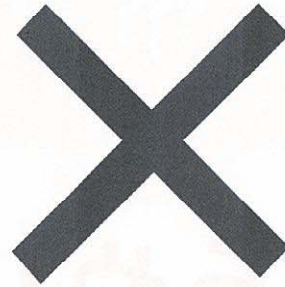
用意しておくのは、

**不適切**である。



## 親子防災クイズ

Q お菓子・おもちゃ・ゲーム・人形などを、「非常用持ち出し品」として用意しておくのは、不適切である。



子どもが安心できるものを持ち出すことは、非常時に気持ちを落ち着かせるために必要です。



また、支援物資が届くまでに数日かかることもあるため、お菓子も役立ちます。





# 親子防災クイズ⑩



大きな地震が起きたら、  
避難所生活を

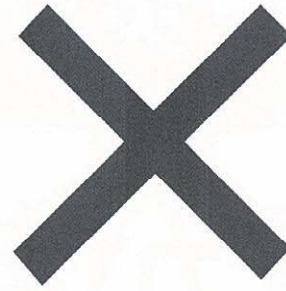
しなければならぬので



心の準備をしておく。

## 親子防災クイズ⑩

Q 大きな地震が起きたら、避難所生活をしなければならないので心の準備をしておく。



避難所生活をするのは、家を失った人、住めなくなった人などです。

ただし、家に住むことができる場合は、近くの避難所に「どこに何人いる」ということを知っておいてもらいましょう。備蓄品などが無くなった場合は、その避難所で確保しておいてもらいます。



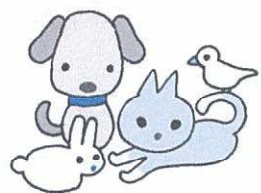


# 親子防災クイズ⑪



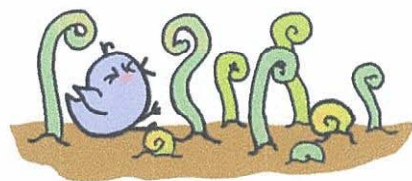
避難所生活をする時、

ペットも大切な家族の一員



なので、

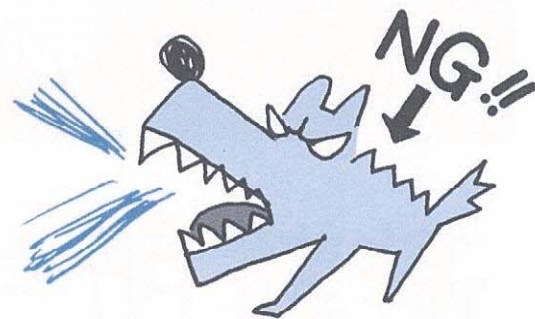
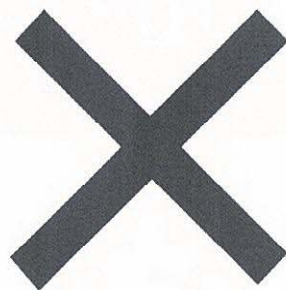
避難所で一緒に生活できる。





## 親子防災クイズ⑪

Q 避難所生活をする時、ペットも大切な家族の一員なので、避難所で一緒に生活できる。



アレルギーのある人、動物が苦手な人も、避難所では一緒に生活することになるため、ペットは避難所の外でゲージに入れて、あるいは繋ぎ止めて過ごします。

また、避難所に連れて行けるペットというのは、原則として、犬、猫、小鳥やその他の小動物です。



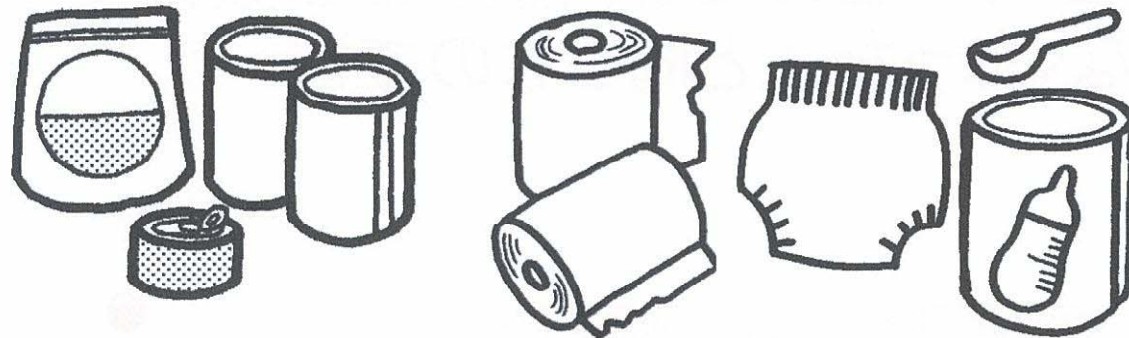
# 親子防災クイズ⑫



避難所で

避難生活をしていないと、

支援物資をもらえなくなるので、  
無理して家で生活しない方が

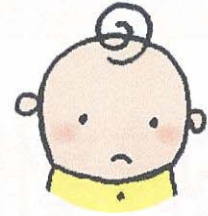
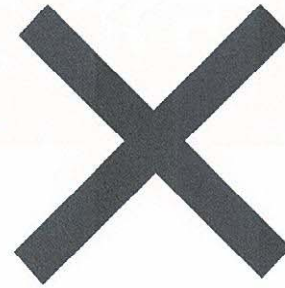


よい。



## 親子防災クイズ⑫

Q 避難所で避難生活をしていないと、支援物資をもらえなくなるので、無理して家で生活しない方がよい。



- ・避難所には、家に住めなくなった人が生活する。自宅に住めるならその方が、プライバシーの心配やストレスが少ないことが多い。
- ・避難所にいなくても、自宅の近くの避難所に、どこで避難生活しているかを知ってもらい、支援物資を供給してもらうようにする(自宅に住めても、備蓄品は数日でなくなるのは、家がなくなった人と同じなので)。





# 親子防災クイズ⑬



自治体が発行している



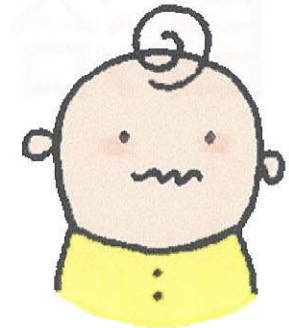
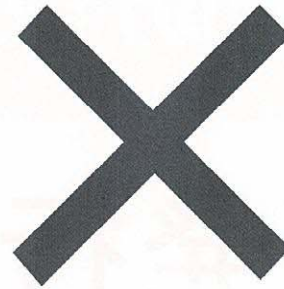
ハザードマップで

津波の危険度が低い地域で

あれば家の耐震と家具の固定  
だけで大丈夫である。

## 親子防災クイズ

Q 自治体が発行しているハザードマップで津波の危険度が低い地域であれば、家の耐震と家具の固定だけで大丈夫である。



- ・土砂崩れや台風などの水害は大丈夫？
- ・突風が吹きやすい場所ではないか？
- ・建物が密集していないか？・・・火災による延焼

ハザードマップだけで安全かどうかを判断するのは、危険である。





# 親子防災クイズ⑭



大きな災害が起こった時に  
家族の安否確認などで使う  
「災害用伝言ダイヤル」の番号は、

**「177」**

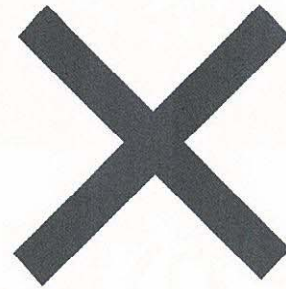
である。





## 親子防災クイズ⑭

Q 大きな災害が起こった時に  
家族の安否確認などで使う  
「災害用伝言ダイヤル」の番号  
は、「177」である。



「171(いない)」

である。

元日を除く毎月1日、

防災週間(8月末から9月初旬)、

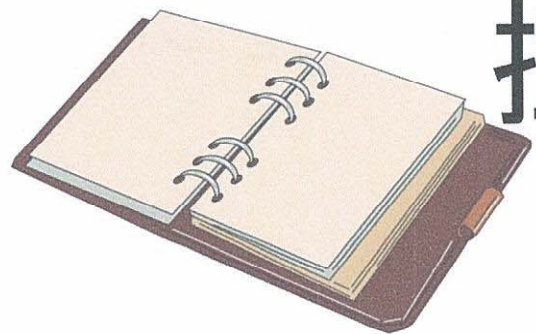
防災とボランティア週間(1月15日9:00~21日17:00)  
に試すことができます。



# 親子防災クイズ⑮



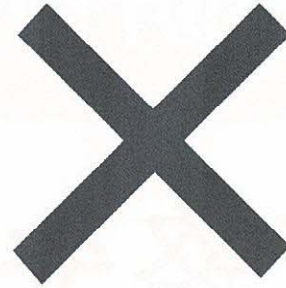
家族の連絡先は、  
携帯に入っているので、  
手帳や防災カードに  
控えない方がいい。





## 親子防災クイズ⑮

Q 家族の連絡先は、携帯に入っているのですが、手帳や防災カードに控えない方がいい。



- ・携帯など、バッテリーが必要なものは、バッテリーが切れると使えなくなる。
- ・アナログな手帳や防災カードに、連絡先など(処方薬の名前やアレルギーなども含む)を記録しておくことも必要。ただし、個人情報なので、取り扱いに気をつける。

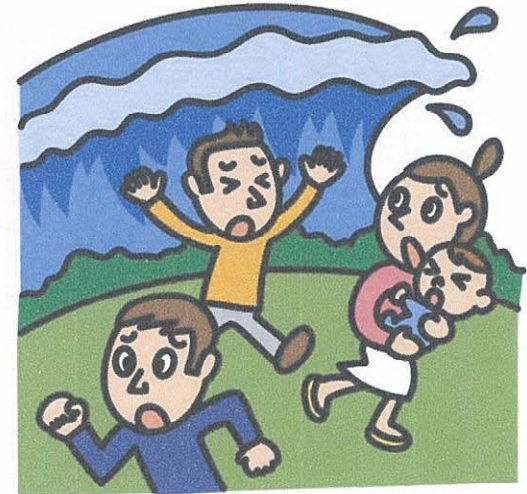




# 親子防災クイズ①⑥

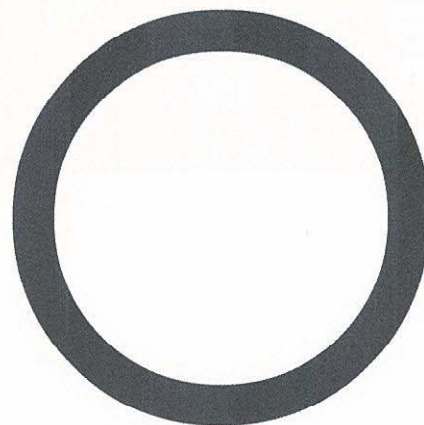


災害は、  
いつ起こるかわからないから、  
日頃から、出かける時は、  
家族に行先などを  
伝えておくほうがよい。



## 親子防災クイズ⑩

Q 災害は、いつ起こるかわからないから、出かける時は、家族に行先などを伝えておくほうがよい。



- ・家族がそろっている時に被災するとは限らない。
- ・職業によっては、災害が起こると任務遂行のため、家族の安否も確認できないものもある。いざという時に、家族がどのような状況になるかを予め話し合っておく必要がある(その後、埋められない心の隙間ができることもある)。





ぴっぴ家族の

家族防災の決定版!!

# 減災BOOK

2012

～ いきる・まもる・つながる ～

NPO法人

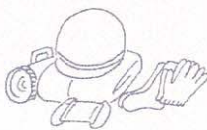
制作: はままつ子育てネットワーク ぴっぴ

頒布価格: 1冊500円(税込) 発行: 2012年3月



### この冊子の特徴は...

- ✓これまで起こった災害から  
今、必要としている備えが学べる。
- ✓身近なものを利用して  
災害時に役立つグッズ作りを紹介。
- ✓幅広い年齢層に向けての防災教育に役立つ。



### 注文方法

電話かFAXにて、NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴまで。

電話 **053-457-3418** (受付は、月～土曜日、9時～17時。年末年始を除く)

FAX **053-457-2901**

- 支払方法: ①窓口で直接受け取り、代金をお支払い。
- ②配送で受け取り、同封の振込用紙にて代金と送料をお振込み。  
(※振込手数料はご負担ください)

### 問合せ先

NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ

〒430-0929 静岡県浜松市中区中央三丁目4番18号 電話 053-457-3418

(※電話での受付は、月～土曜日、9時～17時。年末年始を除く)

### 送料:

下記の表をご参照ください。お届けは日本国内に限ります。ゆうメールまたはゆうパックにて、配送いたします。

冊数	送料
1～2冊	80円
3～4冊	120円
5～8冊	200円
9冊以上	ご相談ください。

キリトリ

『ぴっぴ家族の減災BOOK 2012 ～いきる・まもる・つながる～』

## 【注文書】

注文日: 年 月 日

注文冊数	冊	受け取り方法 <small>どちらかに○をつけてください。</small>	直接受け取り ・ 配送
代金	①冊子代金: 500円 × _____冊 = _____円		合計: ①+②
	②送料: _____円		_____円
お名前			
ご住所	〒 _____		
	都道府県	市区町村	
お電話	ご自宅: ( _____ ) _____	携帯電話: _____	

送信先FAX番号 053-457-2901

# ぴっぴの 家族防災カード の使い方

## ■カードについて

- ・「大人用」と「こども用」があります。(大人用は三つ折り・カードサイズ、子どもはA6サイズ)
- ・大人用は、大人が普段持ち歩き、こども用は幼児以上のこどもに持たせておくと安心です。

↓大人用(三つ折・カードサイズ)

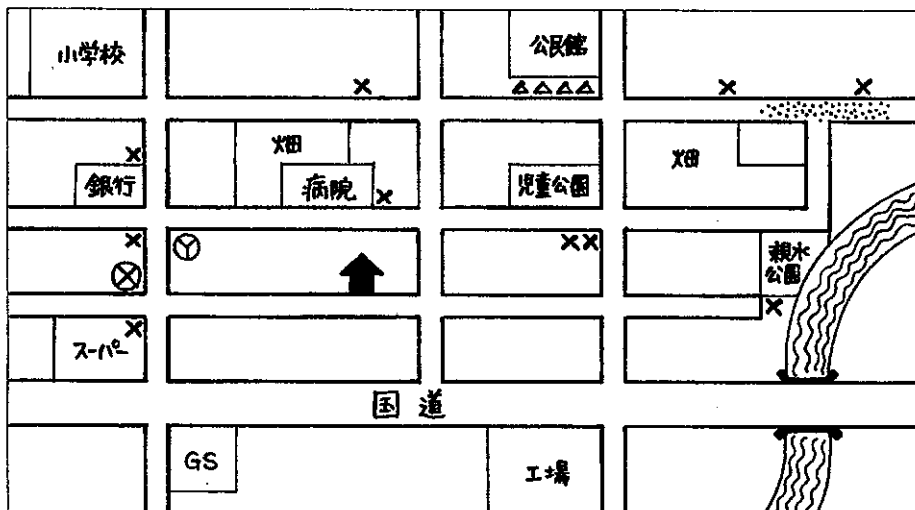
The image shows three versions of the 'Family Disaster Card'. On the left is a three-fold adult version (A6 size) with sections for '自分の情報' (Personal Information), '家族の情報' (Family Information), and '困った時に頼りになる人' (People to rely on in trouble). In the middle is another view of the adult card showing '避難場所' (Evacuation spots). On the right is a smaller child version (A6 size) with sections for 'あなた自身' (You), 'あなたのおまわり' (Around you), 'おまわり' (Surroundings), and 'おまわり' (Surroundings).

※注意：個人情報が入力されているので、取り扱いには注意しましょう。

## ■避難経路・危険箇所マップについて

- ・避難経路・危険箇所マップは、下記のサンプルを参考にして、自宅近くの危険箇所を記入しましょう。
- ・避難経路は、1通りだけでなく、道がふさがるとして通れない場合も考えておきましょう。

### 👟 避難経路・危険箇所マップ



↑...自宅    X...自販機    ⊗...交番    ⊙...消防署  
 △△△...がけ    ≌...川    ●●●...大雨で冠水するところ



防災教育チャレンジプラン 家族防災会議、学習計画 (60分講座)

ねらい	災害はいつ起こるか分からない。家族が離ればなれになっている時に、災害が起こった場合、どのように安否確認するか、あらかじめ家族で話し合っておくことが重要であることに気づく。			
背景	東日本大震災では、災害が起こった直後、家族間の連絡が取れず、母親が一人で子どもを守り、夫は職場で対応したために、埋められない溝ができて離婚した家庭もあった。一方、SNS やツイッターなどをうまく活用して連絡を取り合い、危機的状況を助け合ったことによって、絆を強めた家庭もあった。災害は起こってみないとどのような状況が待ち受けているのかわからない部分があるが、命を守るために、あるいは、モノや心の被害を最小限に食い止めるためにも、あらかじめ家族で話し合いを持つ必要がある。			
参加者	子育てサークルの会員。(未就園児と保護者)			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が起こる前に、家族でいざという時のためのルールを決めるなど、確認しておく必要性があることに気づき、自分の家庭で決めておく必要がある項目を挙げる。</li> <li>・幼児でも守るだけの存在ではなく、子どもの発達に合わせて防災教育を行う必要があることに気づく。</li> <li>・各家庭で、災害時の行動や、家族内の決め事を、家族全員が周知しておき、定期的かつ継続的に確認し合う必要があることに気づき、各家庭で実行する。</li> </ul>			
方法	紙芝居の後は、グループに分かれ、グループ討議を中心にすすめる。			
		主な発問など	予想される参加者の反応	留意点
講座のすすめ方	導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の講座注意事項と目的説明</li> <li>2. 大地震が発生した時、自分の家やよくいる場所で起こりうる可能性のある災害はどのようなものか？地震以外の災害は大丈夫か？どのようになるか？想像して、あるいは経験から発表してもらう。</li> <li>3. 防災〇×クイズ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 津波、水害、竜巻、土砂崩れ、火災、電話やメールがつかない、ライフラインが使えない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 備えや防災に関する知識に差があるが、知っておくことがいざという時の冷静な判断力につながる。これから、情報収集や興味関心を持ち続けることが必要。子どもは保育スペースと講座スペースを行き来するのはOK。</li> <li>2. ハザードマップの危険性。安全な場所の人ほど、亡くなった。</li> </ol>
	展開 (30分)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紙芝居「その時、きみはどうする？」を読み聞かせする。</li> <li>2. 発災直後、園児や児童のいる家庭での子どもの迎えはどうするか決めているか？問いかける。</li> <li>3. グループに分かれ、自分の家庭で話し合っておく必要がある項目は何かを考える。</li> <li>4. 家族防災会議は、家族での話し合いだけでなく、他にもやっておきたいことを紹介する。</li> <li>5. 「家族防災カード」の各家庭での活用方法を説明する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害はいつ起こるか分からない。家族がバラバラの時はどうするか？</li> <li>2. 子どもの迎えは大きい順か、小さい順か？</li> <li>3. 避難場所の確認、連絡先・連絡方法、学校等の迎えについて</li> <li>4. 「171」の練習。備蓄品の確認。避難経路の確認。避難経路上の危険個所の確認。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発災直後は、情報が混乱する。デマに注意。紙芝居の中のデマ。</li> <li>2. 携帯・メールは不通。メールは送信できても受信ができていない場合あり。ひとりで行動できる年齢なら各自で逃げるが基本として、考えてもらう。兄弟の迎えが必要な場合はどちらを先に行くか？年齢・障がいの有無も考慮</li> <li>3. 災害後仕事優先の夫に不満を感じ、離婚になったケースもある。</li> <li>5. 家族防災カードの「大人用」「子ども用」の違い。</li> </ol>
	まとめ (20分)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの年齢に合わせて、子どもにも主体的にかかわらせることの必要性和、かかわらせ方を紹介する。</li> <li>2. 家族防災会議は、1回だけやるのではなく、定期的かつ継続的に行う必要があることを話す。</li> <li>3. 質疑応答</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児に何から教えればいいのか？</li> <li>2. 毎月1日、誕生日など決めて行う。</li> <li>3. 家族に障がい者や高齢者がいる場合は？</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を説明。幼児でも、子どもの発達に応じて命を守る方法を教えておく必要がある(ダンゴ虫のポーズ等)。近所の散歩の際に危険個所を確認。避難経路は数通り想定しておく。</li> </ol>
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者は、楽しく学べたか？</li> <li>2. 各家庭に戻って、家族防災会議をやる気持ちが高まったか？あるいは、すでに行っている家庭については、定期的かつ継続的に行うことの重要性に気づき、内容の見直しができたか？</li> <li>3. 防災クイズ・紙芝居・家族防災カード・子どもの命を守る学習記録・子どもを守る防災教育チェックリストは、有効だったか？</li> </ol>			
参考資料	「家族防災カード」「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を活用する。			